

公益社団法人日本地球惑星科学連合

2019 年度第 3 回理事会議事録

1. 開催日時 2019 年 10 月 4 日(金) 13:30～17:30

2. 開催場所 東京大学理学部 1 号館 105 号室

3. 出席者 理事数 20 名
出席理事 16 名 (定足数 11 名 会議成立)

4. 議長 理事 川幡 穂高

5. 出席役員

理事 川幡 穂高
理事 ウォリス サイモン
理事 田近 英一
理事 中村 正人
理事 古村 孝志
理事 阿部 なつ江
理事 市川 洋
理事 小口 千明
理事 河宮 未知生
理事 木村 学
理事 中村 昭子
理事 成瀬 元
理事 西 弘嗣
理事 浜野 洋三
理事 松本 淳
理事 村山 泰啓
監事 氷見山 幸夫

6. 出席オブザーバー

宇宙惑星科学セクションプレジデント 高橋 幸弘
大気水圏科学セクションバイスプレジデント 谷口 真人
大気水圏科学セクション幹事 川合 義美

固体地球科学セクションプレジデント 大谷 栄治

地球生命科学セクションプレジデント 遠藤 一佳

学協会長会議議長 榎並正樹

JpGU-AGU Joint Meeting 2020 大会タスクフォース 末広 潔

午後 13 時 30 分、定数に達したので川幡穂高会長が開会を宣した。インターネット電話 ZOOM を利用し、遠隔地から参加する役員が審議に参加できることを確認した。

7. 審議事項

第 1 号議案 新入会員承認の件

定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を審議した。これを承認した。

第 2 号議案 委員会委員承認の件

環境災害対応委員会、ジャーナル編集委員会、三宅賞審査委員会、フェロー審査委員会の新規委員について案の通り委員を承認した。

第 3 号議案 特定資産取扱規則設置の件

特定資産取扱規則を新たに設置することを審議した。案の通り設置することを承認した。

第 4 号議案 会計処理規則改訂の件

会計処理規則の改訂を審議した。案の通り改訂することを承認した。

第 5 号議案 地球惑星科学振興西田賞準備資金取扱規則改訂の件

地球惑星科学振興西田賞資金取扱規則の改訂を審議した。規則名を地球惑星科学振興西田賞資金取扱規則に改訂することも含め、案の通り改訂することを承認した。

第 6 号議案 理事候補者選挙実施細則改訂の件

理事候補者選挙実施細則の改訂を審議した。案の通り改訂することを承認した。

第 7 号議案 三宅賞審査委員会規則改訂の件

公益社団法人日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）審査委員会設置規則の改訂を審議した。案の通り改訂することを承認した。

第 8 号議案 その他

川幡会長から台湾の Chinese Geoscience Union との MOU について緊急動議があり、審議した。本件については、相互の満足のいく形になるよう呼称に留意すること、Taiwan Geosciences Assembly (TGA) は 3 年に一度の開催のため、相互利益供与（会員割引、ブースの提供）についてはテクニカルな面から今後詰めを行うこと、相手の窓口は現学会長の

周 (JOU) 先生, 前学会長の馬 (MA) 先生とすること、の3点を確認し、MOUを進めることを承認した。

7. 報告事項

1. 川幡穂高代表理事職務報告

2020年のJpGU - AGU Joint Meeting に関して、会長より「学協会に向けて英語セッション推進のお願い」をメールにて発信したことの報告があった。これについて前向きな返答が数件寄せられたことの紹介があった。

前回の理事会で了承された大会でのイベントの公募について、要領が示された。2020年大会はAGUとのJoint Meeting であるので、「AGU側とも協力して準備することが重要」とのコメントがあり、この方向で準備することが理事会として了解された。

また、連合がサポートしていたAOGS2022年大会の福岡市への誘致について、日本政府観光局認定MICEアンバサダー佐藤毅彦氏より、落選の報告と御礼状が届いた旨報告があり、経緯を報告した。福岡市自体の評価は高かったため、次回以降も含めて協力を継続することを確認した。

2. ウォリス・サイモン理事 (グローバル戦略担当) 職務報告

AOGS2019への参加報告があった。ブース出展の様子やミーティング、セレモニーについて報告した。

3. 田近英一理事 (広報普及・30周年記念事業担当) 職務報告

広報普及委員会の活動報告があった。次号JGLは11月発行に向けて準備中であること、また12月の高校生講座の準備を開始していることについて報告があった。

30周年記念事業について準備状況の報告があった。8月26日に第1回会合を開催した。30周年記念のキャッチフレーズ、ロゴを検討した。提案のあったキャッチフレーズ、ロゴを基本的に了承した。但し、文言・デザインの詳細については引き続き検討し、最終的に30周年TFに一任することとなった。

連合大会30周年記念に際し、企業から出資金を募って記念の映像を作成することを含む大会への協力の申し出を受けていることが報告された。理事会で議論した結果、「①弁護士と相談の上、計画されている内容を契約書としてまとめること②総務理事と財務理事と緊密に連絡をとること③さらに内閣府とも協議を行いながら円滑に進めること」の3点に留意して、先方と相談を開始することが了承された。

30周年記念イベントについて検討した。式典を懇親会の中で行うという案、アイスブレイカーの中で行うという案が挙げられた。

中村正人理事から、30周年にあわせて連合から社会に対してメッセージを発してはどうかという提案があり、セッションに盛り込むこととした。

JpGUがAGU-EGUなどと協力しながら実施するユニオンセッションについては、2020年5月25日(月曜日)のAM1, AM2, PM1, PM2の時間枠を使用し、①Diversity+Equality、②Journal+Open Science、③Geoethics、④Anniversaryなどをテーマとし、英語によるセッションとすることが了承された。本年のEGU年会開催時に、EGU会長より「政策担当者への提言」を重視したいとの発言があったが、来年のJpGU-AGUでは「地球惑星科学の社会への貢献」を考えるよい機会としたい。そこで、各々の講演において「地球惑星科学の社会への貢献」に関する意義や提言への言及を依頼し、全体としての統一感を達成することを目標とすることが了承された。

なお、日本学術会議とJpGUのユニオンセッションについては、Open Science、Data Scienceなど、日本学術会議が現在取りまとめを急いでいる内容をベースとして、これを

地球惑星科学の具体的なテーマについて当てはめた場合の問題点や課題などについて講演してもらう方向で準備することが了承された。

4. 中村正人理事（財務担当）職務報告

中村理事より、寄附募集周知のお願いがあった。寄附募集については JGL にも記載する。

会長から、招待者からも寄附が受けられるような機会を考慮してほしいとの発言があり、理事会で議論した。「ご祝儀」のコーナーを設置するなど、来年の大会に間に合うよう、今後検討することとなった。

5. 古村孝志理事（ジオエシックス担当）職務報告

理事会に先立って開催したジオエシックス TF の報告があった。2020 年大会で 30 周年記念と連動したセッションでの議論を検討している。

6. 西 弘嗣理事（総務担当）職務報告

前回の理事会以降に連合が承認した後援について報告があった。

代議員選挙について「地球惑星科学総合」については候補者数が定数を超えず、補欠選挙となった。補欠選挙の日程については理事会の承認事項となるため、前もってメールにて諮り、承認を得た。また、現在は代議員選挙の投票期間である。積極的な投票、また周知の協力依頼があった。

また、連合の規則について、書類上体裁の整っていない部分があるため、これを整えていく予定であるが、規則の変更でなく体裁のみであるので、総務に一任してほしいとの依頼があり、これを了承した。

7. 大会運営委員会活動報告

浜野理事より、2020 年大会の準備状況について報告があった。現在セッションの提案受付期間である。例年最終日とその前日に大量の提案があるため、なるべく早期に提案してほしいとの依頼があった。

2020 年大会に関して以下のような 6 点が報告された。①2020 年大会ではランチタイムを 90 分から 120 分に延ばし、以降のスケジュールを 30 分後倒しにする。②昨年理事会にて承認された通り、指定機関払い制度を廃止する。③早期登録料、通常登録料に加え、現地窓口登録料の料金を新たに設定する。現地窓口登録料は、大会当日の窓口での参加申込者に対するコストがかかりすぎているために設定する。④昼間のポスターのコアタイムは夕方のみとする。⑤投稿不採択時の不服申し立てを一回のみとすることを明記する。⑥新聞プログラムは廃止する

Shirase でのセッション開催についても準備している。また HyperWall を用いた新たなセッションも準備しており、現在セッションを通じて提案を募集している。

なお 2022 年大会については幕張メッセを会場とすることが報告された。

8. JpGU-AGU Joint Meeting 2020 大会タスクフォース活動報告

末廣主査より、2020 年大会タスクフォースの活動報告があった。7 月 16 日には AGU を訪問し、また 8 月 28 日には合同のプログラム委員会をリモートで行いタスクとスケジュールの確認を行うなど、AGU と連携し順調に準備を進めている。AGU からもセッション提案受付について周知活動がなされている。グレートディベートの準備、10 月のセッション調整会議、11 月のセッション採択会議等に向けて準備を進めている。

DFG（ドイツ研究振興協会；German Research Foundation）からライプニッツ賞受賞者による講演の打診があり、ランチタイムでの講演の開催を検討している。

9. 教育検討委員会活動報告

市川理事より、教育委員会の活動報告があった。本年度教員免許更新講習事業の実施報告、教育検討委員会教員養成等検討WGの活動報告、全国高校地学教育関係者交流会の準備状況、第2回アースサイエンスウィークジャパンの準備状況、地学オリンピックならびに地理オリンピック日本委員会の活動状況、2019年度地学教育研究集会の開催報告、日本学術会議地球惑星科学委員会地球惑星科学人材育成分科会地学・地理学初等中等教育検討小委員会の活動状況、理数系学会教育問題連絡会の活動状況、等について報告があった。

また西理事から、日本学術会議地球惑星科学人材育成分科会で提言を準備していることが紹介された。

代議員選挙で「地球惑星科学総合」登録区分で候補者が定数に達しなかった件について問題提起があった。会長から、「地球惑星科学総合」は、教育、Ethics、その他の課題を扱うように、近年重要度が高まっているとの発言があった。現在までのサイエンスセクション体制となった経緯を理解した上で、①「地球惑星科学総合」にプレジデントを設けた時の問題点や課題、②「地球惑星科学総合」の運営に関する指針などについて、総務担当西理事、サイエンスセクションプレジデント、市川理事が、この問題を検討し、次回理事会に経緯や問題点を整理して今後の方策を提出してほしいとの依頼があり、これを了承した。

10. 顕彰委員会活動報告

中村昭子理事より、2020年度フェローおよび学術賞（三宅賞）の募集要綱について報告があり、了承された。

前回フェローの公表時に惜しくも選外となった方の推薦者から審査について問い合わせがあったため審査の過程については開示していない旨返答をしたという経緯があり、中村昭子理事よりこれについて問題提起があった。検討の結果、今回の募集については、「審査の過程については開示しない」旨を募集要項に明記し、募集を開始することとし、引き続き返答方法については検討することとなった。

また、成瀬理事より、2019年大会の学生優秀発表賞の受賞者については7月に決定し、既に発表と本人通知が完了している旨報告があった。

11. 情報システム委員会活動報告

村山理事より、情報システム委員会の活動報告があった。日本学術会議の課題別委員会「オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会」の活動の紹介、G7科学会合への参加報告、国内の学協会・関係機関におけるオープンデータ、オープンサイエンスに関する会合への参加報告、情報処理学会学会誌への依頼原稿の出稿報告等について報告があった。

12. 環境災害対応委員会報告

松本理事より、環境災害対応委員会の活動報告があった。10月2日に委員会会議を開催し、パブリックセッションの準備等について検討した。

10月18～19日開催の「ぼうさいこくたい」に出展する。掲示ポスターに加え、パブリックセッションを周知するフライヤーを作成して配ることを計画している旨報告があった。

13. ジャーナル編集委員会活動報告

川幡理事より、ジャーナル編集委員会の活動報告とPEPSの出版状況についての報告があった。

議長は以上をもって、すべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(午後 17 時 30 分)
以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席理事は次に記名・押
印する。(捺印欄配布時省略)

2019 年 10 月 4 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 3 回理事会

出席理事	川幡	穂高	印
出席理事	ウォリス	サイモン	印
出席理事	田近	英一	印
出席理事	中村	正人	印
出席理事	古村	孝志	印
出席理事	阿部	なつ江	印
出席理事	市川	洋	印
出席理事	小口	千明	印
出席理事	河宮	未知生	印
出席理事	木村	学	印
出席理事	中村	昭子	印
出席理事	成瀬	元	印
出席理事	西	弘嗣	印
出席理事	浜野	洋三	印
出席理事	松本	淳	印
出席理事	村山	泰啓	印
出席監事	氷見山	幸夫	印